

虚子記念文学館投句特選句・令和六年三月

稲畑廣太郎 選

木の芽風時にはつゝのる館の庭

新潟 安原 葉

天といふ遠き故郷梅咲けば

兵庫 西村みどり

山笑ふ瀬戸内海をくすぐつて

兵庫 玉手のり子

物種を販ぎ未来を販ぎけり

大阪 須知香代子

カフェラテにハートくつきり三月来

兵庫 上岡あきら

堇摘む歌劇の街の女学生

大阪 多田羅紀子

ホームズてふ名前負けしてゐる子猫

兵庫 高野さち

雛の間と化し風格の談話室

兵庫 深尾真理子

剪定や迷ひに迷ひたる鋏

兵庫 道中義臣

先輩の指のふるへや卒業歌

兵庫 武田奈々

(青少年)

# 入選句・令和六年二月

屋台席暖簾の中まで花吹雪	埼玉	小田毬藻	東雲に影を引きつつ鶴帰る	兵庫	中村恵美
亀鳴くや返してすぐに借りる凶書	大阪	押見げげげば	大雨のお水取とて合羽着て	兵庫	槌橋眞美
偲ぶ歩に慕ふ歩幅に下萌ゆる	鳥取	前田 千	鶴引きて湖畔に黙の戻りけり	大阪	西尾浩子
啓蟄や子等は都会へ憧れて	大阪	立入宮子	神代より続く木洩れ日伊勢参	香川	葛原由起
細波の綺羅に紛れて残る鴨	奈良	山口廣世	館にゐて次郎左衛門雛とゐて	兵庫	奥田好子
旧交を温む卓や春の燭	兵庫	宮本露子	お雛様明るき会話聞きにけり	兵庫	辻田あづき
法螺貝の太く響く音御開帳	三重	中島庸子	吊橋の架け替へ祝ひ山笑ふ	徳島	多田まさ子
芽柳の揺れて夢二の愁ひかな	大阪	大橋明子	曼荼羅の如俳磚に春日かな	大阪	林 曜子
逝きし子の雛やうやく供養せり	兵庫	森岡喜恵子	紅梅を染めて明るき三代句碑	石川	辰巳葉流
芽柳や川面に緑灯し初む	大阪	ふじもと言果	門川に午後の日やさし雛の宿	兵庫	永沢達明
天地をひつくり返し鳥の春	大阪	若林友子	帰天ミサ修し明日へと青き踏む	兵庫	池田雅かず
娘は母となりし歳月古雛	奈良	河村久美子	刈り込めることが力に薔薇の芽	香川	三宅久美子
初音聞く心づもりで訪ふ古刹	石川	白根寿子	春一番吹けば待ちかねたる季節	京都	山崎貴子
幼子の笑ろては零す雛あられ	兵庫	小柴智子	帰るべき家失ひし恋の猫	兵庫	岸川佐江
白酒の口直しとかのたまうて	三重	池本準一	子ら男のみ忘らるる雛祭	愛知	海神瑠珂
師の邸の春禽の声とどく館	大阪	徳岡美祢子	また明日別れ行く子に春夕焼	奈良	堀ノ内和夫
門川の古き木橋や柳の芽	大阪	杉山千恵子	雨音が地虫急がせをりにけり	兵庫	池田文子
わがままは癒ゆる兆しや春めけり	兵庫	齊木富子	啓蟄や再開発のつづく街	大阪	河辺さち子
春泥をふざけ踏み合ふ通路	滋賀	尾崎恵子	六甲に夕影せまる朧かな	京都	西村やすし
雛祭あの子今頃天国で	大阪	五井 晃	啓蟄や我ももぞもぞ動き出し	兵庫	宮野秀太
燕来る卯建の多き旧街道	大阪	窪田由紀子	春泥を跨ぐ喪服の裾上げて	大阪	棕本望生
春奏つアインシュタイン弾きし鍵	兵庫	山之口倫子	門川の流れとことわ惜春忌	愛知	小野 薫
日に風に芽柳広ぐ点と線	三重	松村咲子	洒落込んだ店の名刻む春兆す	三重	水越晴子
汀子忌を修しまだまだ学ぶ事	兵庫	黒田千賀子	ランドセル放り投ぐ子や鼓草	兵庫	足立朱麻
残る鶴二羽の一景邸の庭	大阪	谷本房子	牡丹の芽見つけし朝はづみゆく	兵庫	平尾孝子

梅香る商都誇りの城称へ

大阪

田中靖子

行けどゆけど霞の中へ旅つづく	兵庫	二瓶美奈子	風の日のはかぜのかたちの石鯨玉	兵庫	太平楽太郎
陽炎の中に子等ゐる広場かな	兵庫	金田八江子	大陸の気配をのせて霾れる	石川	辰巳昌彦
花ミモザ阿修羅の眉間ゆるみをり	兵庫	伊藤秀子	草の芽の横でぼこぼこ土竜塚	神奈川	斎藤苑子
紫木蓮山の消息携へて	兵庫	入谷千恵子	春塵の楽日大入り尊富士	兵庫	キートスばんじょうし
動く子をさらに陽炎動かして	兵庫	山口弘子	引鶴の戦地に帰りざらぬ命	京都	杉森大介
剪定の終へたる庭の新しく	兵庫	山岸正子	竹箒仕舞ひ忘るる日永かな	兵庫	阿曾宏之
陽炎や彼の世へ誘ふ揺れみせて	兵庫	大西美知子	老翁の草笛途切れ途切れかな	東京	宮村土々
陽炎やシャガールめきぬ二人連れ	兵庫	三木雅子	春愁や猫につられて生あくび	神奈川	金子三奈乃
雨の糸しばし眺めて春障子	兵庫	永井ひろ子	境内に黄の双蝶の巡り会ひ	神奈川	小林 心
陽炎のむかうは異町歩を止めぬ	兵庫	山崎渺美	師を仰ぐこゝろや花を仰ぎつゝ	神奈川	進藤剛至
歳時記に落花挟みて帰る路	奈良	豚々舎休庵			
聖金曜教会を経て虚子館へ	兵庫	岩鼻絹子			
狛犬の口に一枚紅き梅	兵庫	高市敦之			
グラウンドを平らにならす春の星	静岡	いたまき忠			
ひとつつつ読む虚子俳話あたたかし	兵庫	藤井啓子			
春の雨ピエタの頬へとめどなく	兵庫	月あんぬ			
山肌を恥らひ隠す霞かな	兵庫	福田光博			
幾重にも宮殿護る春疾風	熊本	貴田雄介			
春泥の靴の並びし診療所	兵庫	恵島祥一朗			
水温む回復と言ふ贈り物	兵庫	岩水ひとみ			
踏青や杖とも頼む句友葉流	石川	伊東弥太郎			
雲を師と仰いで白き花辛夷	兵庫	伊集院秀樹			
写生する子らを詠み込む虚子忌かな	和歌山	中島紀生			
初花と視線つながる虚子館	兵庫	田村惠津子			
蒼天にホウと伸びせり白木蓮と	神奈川	平野孤舟			
乗継ぎの階段急ぐ春シヨール	滋賀	近江堇花			